

「新しい東北」官民連携推進協議会  
令和元年度 福島県意見交換会（第3回） 議事概要

令和2年1月31日

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局

【日時】 令和2年1月31日（金）10:00～12:00

【場所】 復興庁 福島復興局 7階 多目的会議室

【出席者】

<副代表団体>（順不同）

株式会社東邦銀行、福島県、国立学校法人福島大学、復興庁総合政策班、復興庁福島復興局

<連携対象団体>

特定非営利活動法人コースター ※議事概要の5.1まで参加

<事務局>

PwC コンサルティング合同会社

【議事概要】

1 開会

1.1 開会の挨拶

次年度は復興・創生期間の最終年度でもあるため、これまでの振り返りを行いつつ、今後何を重点的に取り組むかという議論もより具体的に進むことになると思われる。次年度の意見交換会においてもそのことを念頭に置きつつ、引き続きご協力を賜るよう、復興庁より挨拶した。

2 各団体の取組紹介

各参加団体より、取組紹介資料（資料2-1以降）をもとに取組を紹介した。

3 「実践の場」開催報告

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに以下の点を説明した。

① 意見交換会の概要

② 「実践の場」企画背景

③ 「実践の場」概要

④ 「実践の場」開催結果

（参加者の特徴、参加目的・満足度、効果測定）

4 次年度の意見交換会で扱うテーマ

事務局より、事務局提出資料（資料1）をもとに、次年度の意見交換会では「東日本大震災10年目に向けて」をテーマとすることや予定案を説明した。

## 5 意見交換

### 5.1 「実践の場」の振り返り

参加者の満足度は非常に高かったが、集客に難航した点が一番の反省点であった。

次年度もこのテーマを掘り下げるのかは別の論点だが、改善策としては、進学や就職に直結する活動に対する高校生・大学生のニーズが高まっていることを考慮して、より実益のある内容に変更する案が挙げられた。また、今回の内容を変えない場合には、保護者・学校の教員・若手の社会人などにターゲットを変える案と、エリア・学校・学年の別にターゲットをより絞って参加してもらう案が考えられた。

#### <主なご意見>

- ・ アンケートの結果からも分かるように参加してくれた方の満足度は高かったと思うが、集客が難しかった。学習指導要領の改訂などが要因で、昨年度よりもさらに高校生が忙しくなっており、また、ニーズも変わってきているように感じる。今回の「実践の場」はキャリア観を醸成できた点はよかったが、話を聞くだけでなく A0 入試などに繋がるのが高校生のニーズになってきている。例えば次年度は、高校生が喋り手になって大人が話を聞く企画も考え得るが、ニーズだけでなく長い目で見て福島のメリットも考える必要がある。
- ・ 県外に出た人を戻すためのスキームづくりも必要と考える。県内の企業と県外の大学生が協働するプロジェクトができるといい。ただし、これも参加してもらうための導線作りが難しいように感じる。
- ・ 県外に出た人にまた戻って来てもらうためにも、若年層のうちから県内の面白い働き方を知ってもらうことは政策として重要だと思う。ただ、行政が伝えたい内容ではあるが、学生には刺さらなかった。直前まで参加者が数人であったことは重く受け止めなければならない。
- ・ 内容的には大変よかったと思う。しかし、チラシの配布に加え、就職支援課にも依頼して全学生にもメールしたが、ここまで募集効果が出なかったのは驚きだった。今の学生は直接就職に結びつくものでないと行動せず、3年生になったら授業よりインターンを優先する学生も多い。今回もメリットがないと思われてしまったのではないか。そのため、対象を学生ではなく保護者にしてもよかったと思う。親の方が「いい仕事なら県外」というイメージを持っているので、親の考えを変えることにも取り組まなければいけない。
- ・ 社会人の参加者のうち1人と話をした。学生時代に聞くのと、社会人になっていから聞くのとでは同じ話でも受け取り方が違うので、自分の生き方含めて考え直すことができうれしかったようだ。働き始めで迷いが出て来る頃の方が、今回の内容は刺さるのかもしれない。
- ・ 今回は参加対象者を高校生・大学生向けと幅広く設定したが、特定の学校の特定の学年を対象にするなど、ターゲットに対してきめ細かに実施するのがいいのではないか。
- ・ 目的と人数感によると思うが、高校生にとっては先生の影響力が大きいので、先生を動員する方法がよいと思う。例えばデータサイエンティストのような職業を先生が知らないこともあるので、研修の一環で参加してもらう方法が考えられる。
- ・ 今回、1箇所の人に人を集めて何かをする難しさを感じた。各エリアでやるのが好ましいと思う。また、20代半ばで転職考え始めている人にもニーズはあると思うが、東京と違って県内

で開催した場合にどれほど集まるか怪しい。県内出身・県外在住で転職活動中の方だと安定志向の傾向にあるので内容が合わない恐れもある。

- ・ 当日の進行資料で登壇者の読み仮名に 2 箇所誤記があった。あつてはならないことなので、反省が必要。
- ・ 親の勧めで来たという参加者とイベント後に話をした。新たな生き方・働き方を知れて非常によかった、と言っていたので少しでもやった意味はあったかと思う。しかし既に意見が挙がっている通り、高校生・大学生に情報が届いても「参加してみよう」と思うところまでにならなかった点は反省が必要。
- ・ 上から決めつけるのではなく、参加者の様々な相談にも対応してもらえたので、参加者が満足できる内容だったと思う。実益を優先する内容がいいという案もあったが、進学や就職を考える前に県内の働き方を知ってもらうという「実践の場」の趣旨と違ってきてしまうようにも思う。周知方法の工夫、例えば親経由で呼び掛けてもらうなどがよかったのではないか。
- ・ 内容については昨年度よりさらにバージョンアップしており、よかったと思う。登壇者や参加者とも話したが、小さいながらも様々なインパクトを生んでいたため方向性もよかったと思う。ただし集客が難しかった。若者が対象であれば若者なりの集客方法を検討すべき。大人臭がした時点でアウト。

## 5.2 次年度を取組

復旧から復興、復興から地方創生へと段階が変わるスピードは地域差があることに配慮が必要であるが、10年目という節目においては、これまでの成果や感謝を発信することが必要という意見が多く挙がった。

東日本大震災を契機として、企業やNPOと行政のより対等な関係性が生まれ、また、課題先進地域ともいえる福島県では地方創生の先駆けのような活動も多く行われた。そのため、これらを「新しい東北」の成果として他地域にも展開できるように一般化して発信することや、それぞれの活動に携わった方々に振り返ってもらうことが取組の案として考えられた。

### <主なご意見>

- ・ 「新しい東北」先導モデル事業の支援先を集めて振り返りや成果紹介を行う案が、事前ヒアリングでふくしま連復から挙がったと聞いた。「新しい東北」事業では先導モデル事業の他にもこれまで復興・創生顕彰や「結の場」を通じて、復興に直接取り組む方々の後押しをしてきたが、そういった方々にも振り返ってもらう機会をつくるのはよいと思う。
- ・ 「新しい東北」と銘打つときに、何を成果として出せたのかを考える必要がある。NPO等と行政の関係がより対等な「新しい公共」ともいえる新たな関係性になってきたように思う。事例を紹介するだけでなく、どう機能的に見せるか、県でも検討している。
- ・ NPOだけでなく企業もSDGsなど社会的な活動も意識し始めている。よりよい社会をつくるために様々な人が関わる下地をつくることが大事ではないか。「新しい東北」の先導モデル事業や復興・創生顕彰に取り上げられているような、地方創生のモデルとも言えるかもしれない先進的な取組が多く生まれていることが東北の「売り」と思っている。また、そういっ

た取組の現状に加えて、昨年度および今年度実施した「実践の場」の登壇者をさらに知ってもらえるような情報の発信もいいのではないかと。

- ・ ふくしま連復からも、「協議会の発足当初は福島県全域でとにかく連携が必要だったが、今はどこで連携が必要だろうか。協議会や意見交換会で行う取組としてどのようなものであれば意味があるのか。」という問いかけを頂いた。次年度を考える上で必要な視点だと思う。先導モデル事業などの他にも、震災後に生まれた大学発のベンチャーや銀行の支援先を共有し合って、フォローアップするのもありではないか。
- ・ これまでの成果を、10 や 100 ある事例から一般化して総括できたら、ノウハウとして展開することができ、意義が大きいように思う。入口は原子力災害への対応で、CSR として様々な企業に支援してもらったため、同じ前提では全国に展開できないかもしれないが。
- ・ これまでのご意見を踏まえると、「新しい東北」の成果として、先進的な取組や企業や NPO と行政の新たな関係性が生まれたことを発信するとともに、感謝の発信を絡めることが考えられる。また、東邦銀行の取組は若い世代が中心という話だったので、大学と組めるところもあるかもしれない。
- ・ 仕立てについては福島復興局含めて検討したいと思っている。次年度は福島県がオリンピック開催地にもなるので注目される年になると思う。復興や地方創生に結び付けられる機会をつくれたらと思う。

## 6 閉会

次年度の意見交換会の取組は本日の議論をインプットとして検討する。

次年度の第1回意見交換会は6月頃に開催予定。場合によっては第1回開催前にご意見を伺う可能性があるため、その際にはご協力をお願いしたい。

以上